

生徒が自ら探究する授業づくりを目指して

1. 課題意識を高めるための工夫

「注目発問」「着目発問」の設定

注目発問で視点を絞り、着目発問で、事象の理由や関係性を考えます。



「あれ？」を引き出す事象提示

実物や動画を用い、既習知識や生活経験と結びつけて追究意欲を引き出します。

学習課題へのスムーズな接続

生徒の思考の流れに沿って発問を設定し、学習課題を自分事として捉えることができるようにします。



2. 見通しをもって課題解決に向かうための工夫

根拠に基づく仮説設定とモデル化

ICTを活用して思考を可視化し、他者と比較・検討する場を設けます。



93.7%

93.7%の生徒が計画を改善
他者の考えを共有・比較することで、自身の検証計画を見直し、修正できています。

場面に応じた最適なICTツールの選択

Microsoft PowerPointでの条件整理や、FigJam等でのリアルタイムな意見共有を行います。



ICT活用の例

探究の過程	活用ツールの例	主な効果
 仮説の設定	 Google スライド, FigJam	既習知識の整理、モデル図による根拠の可視化
 検証計画の立案	 Google スプレッドシート	条件整理の容易化、他者の計画との比較・検討